

地球規模の水不足時代がやってくる

水をめぐる世界の動向とは？

日本人はこれまで、水に不自由しない生活を送ってきた。それゆえ水の大切さを忘れ、湯水のごとく水を使っている。しかし世界各国は、国を挙げて水の確保に取り組んでいる。水にいま何が起きているのか？ 吉村和就さんに聞いた。

グローバルウォータ・ジャパン代表

吉村和就

●よしむら・かずなり 大手エンジニアリング会社にて営業、開発、市場調査、経営企画に携わり、環境分野でゼロエミッション構想を日本に広げる。国連ニューヨーク本部に勤務、環境審議官として発展途上国の水インフラを指導。著書に『世界と日本の水事情』（水道産業新聞社）など多数。

利用可能な淡水は〇・〇一%

表面の三分の二を水で覆われている地球は、ブループラネット「水の惑星」と呼ばれ、約十四億立方キロメートルの水資源が存在すると言われていています。

しかし、その水資源の九七・五%は塩分を含む海水で、淡水は二・

五%しかありません。しかも淡水の多くは氷山、氷河、深い地下水の状態で存在していますから、ヒトが利用可能な淡水は、わずか〇・〇一%ほど。この〇・〇一%を約七十九億五千万人で分かち合って暮らしていることになります。

国土にいくつもの水源があり、水道も完備されて、きれいな水が豊富に使える日本人にはピンとこないと

思いますが、国連加盟国一九三カ国のうち、自国に水源の無い国は七七%も存在し、世界二六三の国際河川に国の運命を託しているのが現状です。そのため水不足は地域紛争の種にもなっています。

とくに人口が増加し、干ばつの影響を受けやすいアフリカ、アジアではトラブルが頻発しています。複数の国を流域にもつナイル川、メコン

川などでは、現在も水確保のための国同士の争いが絶えません。そもそも人類の初めての大きな争いは川の水をめぐる争いでした。「ライバル」という言葉がありますけれども、この語源は「リバー」だと言われているのです。

地球の水不足は進んでいる

地球規模で見ると、水不足は深刻な状態が進んでいます。その最大要因は何かといえ、人口増加と気候変動です。

人口が増加すれば、当然、食料とエネルギーの増産が必須となります。そのために必要なものは水です。作物は水がなければ育ちませんし、エネルギー生産にも水が必要です。また経済発展が進むと、工業生産のための工業用水の確保も必要になって

きます。今はIT時代で、これからはDX（デジタルトランスフォーメーション）によって産業構造が変化していくなどとも言われていますが、それらを支える半導体にしても、膨大な水がないとつくれません。

この先も地球の人口が増え、新興国が次々と経済発展を遂げるにつれ、水の需要がどんどん増していくことは明らかです。しかも水の場合、石油における石炭、ウランといった代替物がなく、水は水でしか補うことができません。いわば水は唯一無二の大変貴重な天然資源なのです。

その貴重な資源は、地球温暖化で循環が不安定な状況にあります。気候変動で降雨や降水量の地域差が激しくなり、現在は、降雨量が減少し、干ばつがますます深刻化し砂漠化する地域もあれば、集中豪雨や洪水といった水災害が頻発する地域も出て

います。

温暖化で南極や北極の氷床が溶け出したり、氷河や氷山が融解して縮小したり、地球表面上の淡水部分も減少しています。すなわち使える水が減ってきているわけです。

地球温暖化は進行中ですし、世界の人口は二〇五〇年には九十七億人に達すると見込まれています。国連からは、二〇五〇年で約四十億人が水不足に直面するという予測も出されていて、今後、水資源の不足が加速度的に進行していくことは間違いないありません。

拡大する世界の水ビジネス

水不足は必ずや起きる。ということは、水には潜在的なビジネスニーズがあることも意味します。実際、欧米や新興国を中心に水ビジネスは